



UBE 株式会社

2023 年度第 2 四半期決算説明会

2023 年 11 月 6 日

イベント概要

[企業名]	U B E 株式会社
[企業 ID]	4208
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年度第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2023 年度第 2 四半期
[日程]	2023 年 11 月 6 日
[ページ数]	29
[時間]	18:00 – 18:58 (合計：58 分、登壇：35 分、質疑応答：23 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 取締役 執行役員 CFO 石川 博隆 (以下、石川)

登壇

司会：投資家の皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、UBE 株式会社の決算説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

これより取締役執行役員 CFO、石川博隆より、2023 年度第 2 四半期連結決算について、約 30 分間ご説明申し上げた後、質疑応答を行います。会議全体の時間は、60 分間を予定しております。

説明会を始めます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っています。実際の結果が見通しと異なる場合があることを、あらかじめご了承ください。

なお、11 月 22 日 16 時より、UBE 三菱セメント株式会社の第 2 四半期決算説明会を予定しておりますことを、併せてご案内申し上げます。

それでは、説明を開始いたします。石川 CFO、よろしくお願いいたします。

石川：皆さん、こんにちは。CFO の石川です。本日は弊社の 2023 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。それでは早速ですが、ご説明を始めさせていただきます。

2023年度 第2四半期決算概要

UBE / UBE株式会社

連結対象会社

項目	2022年度末 (A)	2023年度 第2四半期末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	36社	36社	0社	
持分法 適用会社数	15社	15社	0社	
計	51社	51社	0社	

まず、3 ページ目をご覧ください。第 2 四半期末の連結対象会社数は 51 社となっております。連結子会社が 36 社、持分法適用会社が 15 社となっております。これは 22 年度末の会社数から変更はございません。

環境要因

項目			2022年度 第2四半期 (A)	2023年度 第2四半期 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	134.0	141.0	7.0	
資材 価格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	892	654	△ 238
		国産	円/KL	83,750	65,350	△ 18,400
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	1,171	906	△ 265
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	406.5	208.3	△ 198.3
			円/t	54,459	29,362	△ 25,097

4

続きまして、4 ページ目でございます。環境要因です。

まず為替ですが、この第 2 四半期は 141 円となっております。前年同期は 134 円ですので、7 円の円安となっております。為替につきましては、弊社は円安のほうは若干の為替のメリットがございます。

それから資材価格でございます。ナフサは 654 ドルとなり、前年同期比で 238 ドル下落しております。ベンゼンは 906 ドルとなり、前年同期比で 265 ドル下落しております。

ナフサにつきましては合成ゴムの売上高に、ベンゼンにつきましてはナイロン、それからカプロラクタムの売上高に影響いたしますが、それぞれの利益につきましては、各製品の市場要因によって決まります。

続きまして豪州炭は 208.3 ドルはとなり、前年同期比では 198.3 ドル下落しております。豪州炭につきましては、石炭火力発電所で使用しております、当社のエネルギーのコストに影響しております。また持分法では、UBE 三菱セメントでセメントを製造する過程でも使用しております。

主要項目

(単位：億円)

項目	2022年度 第2四半期 (A)	2023年度 第2四半期 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	2,448	2,181	△ 267	△ 10.9%
営業利益	85	52	△ 33	△ 38.7%
経常利益	△ 27	113	140	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 13	90	103	-

(注) 2022年度第4四半期連結会計期間において、セメント関連事業の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

5

続きまして5ページ目、主要項目でございます。

売上高は2,181億円となり、前年同期比で267億円、率にして10.9%減収となっております。営業利益は52億円となり、同じく前年同期比で33億円、38.7%減益となりました。

経常利益は113億円となり、前年同期比で140億円改善し、前年同期の赤字から黒字へ転換しております。親会社株主に帰属する四半期純利益は90億円となり、同じく103億円改善し、こちらも黒字転換しております。

次のページ以降で、売上高、営業利益、経常利益の要因についてご説明させていただきます。

セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2022年度 第2四半期 (A)	2023年度 第2四半期 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	機能品	318	313	△ 5	△ 1.6%
	樹脂・化成品	1,495	1,202	△ 293	△ 19.6%
	機械	453	427	△ 26	△ 5.8%
	その他	334	380	46	13.8%
	調整額	△ 151	△ 140	11	-
	計	2,448	2,181	△ 267	△ 10.9%
営業利益	機能品	55	57	1	2.4%
	樹脂・化成品	24	△ 24	△ 48	-
	機械	12	22	9	76.2%
	その他	12	14	2	15.9%
	調整額	△ 18	△ 16	2	-
	計	85	52	△ 33	△ 38.7%

6

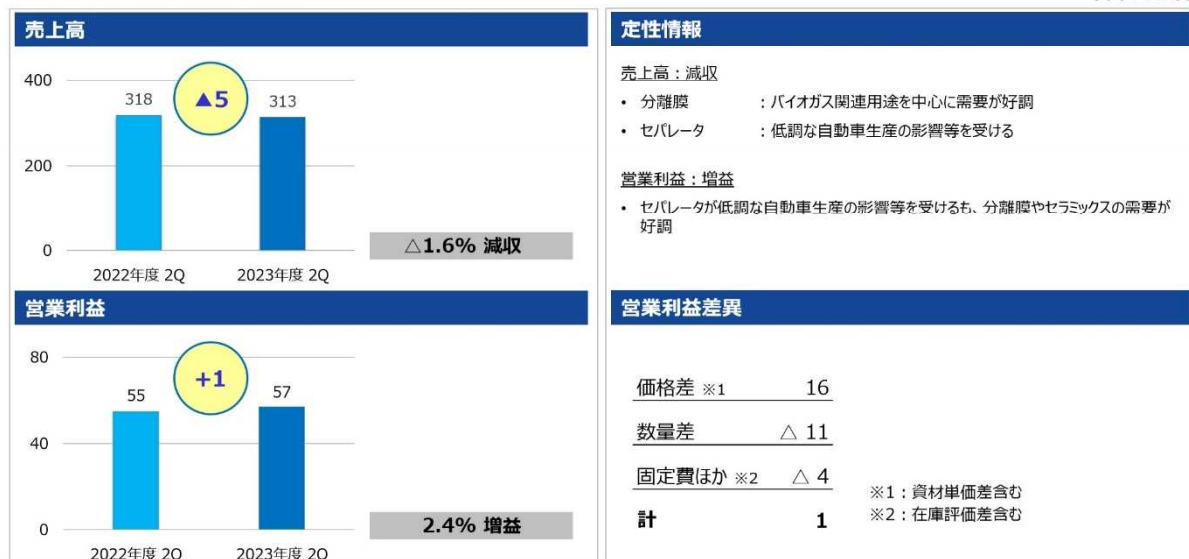
まずは6ページ目に、売上高/営業利益のセグメント別でございます。

売上高は前年同期比で267億円減収となりました。セグメント別で見ますと、やはり樹脂・化成品で293億円減収となっております。売上高の減収要因は、樹脂・化成品セグメントの減収が最大の要因です。

続きまして、営業利益は33億円の減益でした。こちらも同じく、樹脂・化成品が48億円減益となっております。やはり樹脂・化成品が減益の最大の要因となっております。

差異分析 機能品

(単位：億円)



8

まずは機能品でございます。

機能品につきましては、売上高は5億円の減収となっております。その要因は定性情報のところに記載しておりますが、分離膜がバイオガス関連用途を中心に需要が好調でした。他方でセパレータにつきましては、低調な自動車生産の影響を受けております。

営業利益です。こちらは1億円の増益となりました。その要因ですが、セパレータが低調な自動車生産の影響を受けましたが、分離膜、それからセラミックスの需要が好調であったことが上回ったものでございます。

このセグメントについて営業利益差異を見てまいりますと、価格差でプラスの16億円です。自身は分離膜などとなっております。数量差がマイナスの11億円です。こちらはセパレータなどとなっております。固定費他でマイナス4億円ですが、こちらは主として在庫評価差によるものです。

差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



9

続きまして9ページ目、樹脂・化成品でございます。

売上高は293億円の減収です。これをサブセグメントで見ますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズが299億円の減収。エラストマーは6億円の増収となっております。

定性情報のところに少しコメントしております。ナイロンポリマーにつきましては、食品包装フィルム用途などの需要が減退し、原料のカプロラクタムの市況下落等により、販売価格も下落したものです。また、ラクタム・硫安につきましては需要減退により販売数量が減少し、また原料市況の下落等により販売価格も下落しました。これらの要因により、減収となっております。

それから営業利益は48億円の減益となっております。サブセグメントで見ますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズで77億円の減益。エラストマーが29億円の増益となっております。

減益の要因としましては、やはりナイロンポリマー、カプロラクタムの需要減退、それから販売価格の下落でございます。

営業利益差異、右下を見てまいりますと、価格差がマイナス5億円となっております。こちらはサブセグメントで見ますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズでマイナス、エラストマーでプラスとなっております。数量差がマイナス19億円ですが、多くのところはパフォーマンスポリマー&ケミカルズによるものです。固定費他はマイナスの24億円ですが、この大半はパフォーマンスポリマー&ケミカルズが占めております。パフォーマンスポリマー&ケミカルズの中の要因としては、やはり在庫評価差のマイナスが大きくなっております。

差異分析 機械

(単位：億円)



10

続きまして 10 ページ目、機械セグメントでございます。

こちら、売上高は 26 億円の減収です。こちらについては定性情報のコメントにあるように、成形機が自動車産業の設備投資が減速した影響を受けております。また製鋼部門におきましては、需要減退により販売数量が減少しております。

営業利益は 9 億円の増益となりました。その要因は定性情報のところにあるように、成形機、産機のサービスが堅調に推移したこと、また製鋼において原材料価格およびスクラップ価格の下落、それから販売価格の上昇が効いております。

営業利益差異です。こちらは価格差、数量差は出しておりません。主力の機械につきましてはそういった分析をしておりませんので表示しておりませんが、機械部門の限界利益としては 10 億円のプラスとなっております。

差異分析 その他

(単位：億円)



11

続きまして 11 ページ目、その他セグメントです。

こちら、売上高は 46 億円の増収となりました。中をサブセグメントで見ますと、医薬が 97 億円の増収、電力が 9 億円の減収です。その要因としましては、やはり医薬でエーピーアイコーポレーションを連結子会社化した影響によるものです。

営業利益、プラスの 2 億円です。こちらは、医薬はプラスの 10 億円、電力はほぼゼロとなっております。こちらの増益要因も売上高と同じですけれども、エーピーアイコーポレーションを連結子会社化したことによるものです。

それから営業利益差異でございますが、価格差がマイナスの 10 億円となっております。こちらは主として電力で発生しております。それに対して固定費他でプラスの 11 億円となっております。こちらは医薬が主な要因となっております。

営業利益～四半期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 第2四半期 (A)	2023年度 第2四半期 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	85	52	△ 33
営業外損益	△ 113	61	173
金融収支	8	1	△ 7
持分法投資損益	△ 120	59	180
うちUBE三菱セメント株に係る持分法投資損益	△ 127	69	196
為替差損益	16	12	△ 4
その他	△ 16	△ 12	4
経常利益	△ 27	113	140
特別損益	66	△ 5	△ 72
税金等調整前四半期純利益	39	108	69
法人税等・非支配株主利益	△ 52	△ 18	34
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 13	90	103
1株当たり四半期純利益	△ 12.98円	92.93円	105.91円

(注) 2022年度第4四半期連結会計期間において、セメント関連事業の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

12

続きまして12ページ目、営業利益から四半期純利益までの説明となります。

営業利益は先ほど来ご説明のとおり52億円となり、マイナス33億円の減益となりました。これに対して営業外ですが、まず金融収支はこの第2四半期ではプラスの1億円となり、前年同期比では7億円の減益となっております。これは受取配当金の減少によるものです。

続きまして、持分法投資損益は59億円となりました。こちらは前年同期比で180億円改善しております。その内訳は次の行にございますが、UBE三菱セメントに係る持分法投資損益が196億円改善したことによるものです。

UBE三菱セメント

■UBE三菱セメント(株) 連結損益計算書

(単位: 億円)

項目	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2023年度 通期予想
売上高	2,814	2,989	6,000 (6,700)
うち海外事業	659	928	1,850 (-)
営業利益	△200	216	330 (250)
うち海外事業	32	180	240 (-)
経常利益	△186	225	335 (255)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△263	131	190 (145)

■UBE(株) 持分法投資損益

()は2023/5/12に発表した予想

持分法による投資利益 (損失)	△127	69	105 (80)
--------------------	------	----	----------

- 国内セメント事業は、5,000円値上げの完遂、事業構造改善や安価熱エネルギーの使用拡大等の施策を推進したものの、内需減少による販売数量減、円安によるコストUPなど依然厳しい状況が続いており、更なる収益改善を図り、今年度黒字化達成を目指す。
- 環境エネルギー事業および国内グループ会社は堅調に推移している。
- 海外のうち米国事業は、上期の生コン販売数量が前年の天候不順により持ち越された工事が再開し増販となったことに加え、値上げが早期に浸透した結果、対前年で大幅増益となった。一方で下期は生コン販売減とコスト増により上期に比べ減益とはなるものの、値上げ効果により対前年増益となり、通期としても対前年大幅増益を見込む。

■UBE三菱セメント(株) 定量情報

項目	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2023年度 通期予想
セメント(国内総需要) (万t)	1,860	1,739	3,600 (3,800)
セメント(国内) 販売数量 (万t)	457	415	865 (928)
セメント(米国) 販売数量 (万st)	92	93	180 (169)
生コン(米国) 販売数量 (万cy)	368	381	700 (748)
一般炭価格(参考指標) (\$/t)	398	154	177 (370)
ドル為替レート (円/ドル)	134	141	145 (130)

※ 上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 2023年9月末 連結貸借対照表

(単位: 億円)

総資産	7,841	有利子負債	2,034	自己資本	3,458
自己資本比率	44.1%	D/Eレシオ	0.59倍		

35

このUBE三菱セメントの状況につきましては35ページで補足しておりますので、そちらをご覧ください。

UBE三菱セメント社における2023年度第2四半期の損益を見てまいりますと、売上高が2,989億円、営業利益が216億円、経常利益が225億円、親会社株主に帰属する四半期純利益131億円となっており、前年同期からしますと大きく増収増益となりました。利益は相当な改善を見せております。

これにより、UBE三菱セメントに係る持分法投資損益が、前期127億円でしたのが今期は69億円となり改善しました。その要因について、左下にコメントしておりますのでご紹介いたしますと、国内と海外に分けて記載しております。

国内のセメント事業につきましては5,000円の値上げの完遂、それから事業構造改革、また安価な熱エネルギーの使用拡大の施策を推進したことにより、損益が改善いたしました。

また海外、特に米国事業ですけれども、上期の生コン販売の数量は、今年の1-3月の天候不順により出荷が落ちたものが今期に持ち越されております。これらの工事が再開し販売が増えたこと、さらに値上げが浸透したことにより、対前年で大幅に増益になったものでございます。

営業利益～四半期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 第2四半期 (A)	2023年度 第2四半期 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	85	52	△ 33
営業外損益	△ 113	61	173
金融収支	8	1	△ 7
持分法投資損益	△ 120	59	180
うちUBE三菱セメント株に係る持分法投資損益	△ 127	69	196
為替差損益	16	12	△ 4
その他	△ 16	△ 12	4
経常利益	△ 27	113	140
特別損益	66	△ 5	△ 72
税金等調整前四半期純利益	39	108	69
法人税等・非支配株主利益	△ 52	△ 18	34
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 13	90	103
1株当たり四半期純利益	△ 12.98円	92.93円	105.91円

(注) 2022年度第4四半期連結会計期間において、セメント関連事業の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

12

ではもとに戻していただきまして、12 ページ目です。これらの要因によって営業外損益は 61 億円となり、対前年同期比で 173 億円改善しております。その結果、経常利益は 113 億円となり、前年同期比で 140 億円改善しております。

続きまして、特別損益は今期 5 億円のマイナスとなっております。前年同期はプラスの 66 億円でしたので、72 億円のマイナスとなっております。前年同期にはセメント事業の再編に係る持分変動利益が発生していたことが最大の要因であり、これがなければあまり差はないとご理解いただければと思います。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は 90 億円となり、前年同期比で 103 億円改善しております。

貸借対照表

(単位：億円)

項目		2022年度末 (A)	2023年度 第2四半期末 (B)	差異 (B) - (A)
資産	流動資産	2,831	2,754	△ 78
	固定資産	4,494	4,678	184
	合計	7,327	7,433	107
負債	有利子負債	2,181	2,146	△ 36
	その他負債	1,329	1,270	△ 59
	計	3,511	3,415	△ 95
純資産	自己資本*	3,616	3,817	200
	非支配株主持分他	200	201	1
	計	3,816	4,018	202
負債・純資産合計		7,327	7,433	107

*「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

(注) 2023年度第1四半期連結会計期間において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度末に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

13

続きまして13ページ目、貸借対照表でございます。

資産は7,433億円となり、107億円増加しております。中身について、まずは自己資本を見ていただきたいと思いますが、こちらは3,817億円となり、22年度末と比較し200億円増加いたしました。この第2四半期では配当で44億円支払っておりますけれども、四半期純利益、それから円安に伴います為替換算調整勘定の要因によって、自己資本は200億円増加いたしました。

他方、資産側で見ますと特徴的なところとして固定資産が184億円増加しております。その主な内訳として投資有価証券が約140億円増えておりますが、主な要因はUBE三菱セメントに係る投資有価証券の増加でございます。また、有形固定資産も40億円あまり増加しております。

以上が貸借対照表のご説明です。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

項目	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	
A.営業活動によるCF	113	234	税金等調整前四半期純利益 108 減価償却費 130 他
B.投資活動によるCF	△ 57	△ 176	有形・無形固定資産の取得 △143 短期貸付金の増減 △27 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	56	58	
C.財務活動によるCF	△ 149	△ 91	有利子負債の増減 △43 配当金の支払 △48 他
D.現金及び現金同等物の増減 (含、換算差額等)	△ 512	△ 22	
E.現金及び現金同等物の四半期末残高	275	285	

(注) 2022年度第4四半期連結会計期間において、セメント関連事業の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

14

続きまして14ページ目、キャッシュ・フロー計算書です。

営業キャッシュ・フローはこの第2四半期、234億円となりました。前年同期が113億円ですので、大きく改善しておりますが、税金等調整前四半期純利益が108億円となり、前期から39億円のプラスでした。この改善が大きな要因と考えております。

それから投資キャッシュ・フローはマイナスのキャッシュアウトで176億円です。前期が57億円のキャッシュアウトでしたので、今期大きくキャッシュアウトが増えているように見えます。こちらは右側のコメント欄にもございますけれども、短期貸付金の増減が影響しております。

今期はマイナス27億円とコメントしておりますが、前期もUBE三菱セメント設立に伴う貸付返済等が起こっております。これらの短期貸付金の増減を除きますと、今期の投資キャッシュ・フローは149億円のキャッシュアウトですが、前年同期は140億円のキャッシュアウトとなり、おおむね近い金額となっております。やるべき設備投資などは着実にやっているということかと考えております。

続きまして現金および現金同等物の増減において少し目立った差がございますが、今期が22億円のマイナス、それに対して前期が512億円のマイナスとなっております。前期は会社分割に伴い、新設しましたUBE三菱セメント社に現金を分割しております。これがかなりの要因を占めているとご理解いただければと思います。

一番下の欄、現金および現金同等物は、連結ベースで見まして約 300 億円となるよう当社がコントロールしております。今期も 285 億円ということで、おおむねそれに近い数字で着地したかと思っております。

財務キャッシュ・フローにつきましては手元現金、現金同等物を 300 億円近くにすべく調整として使っているとご理解いただければと思います。

以上が第 2 四半期の決算概要でございます。

連結対象会社

項目	2022年度末 (A)	2023年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	36社	36社	0社	
持分法 適用会社数	15社	15社	0社	
計	51社	51社	0社	

16

続きまして、通期の予測についてご説明いたします。16 ページ目をご覧ください。

連結対象会社です。こちらは 23 年度末につきましても 51 社となっております。連結子会社が 36 社、持分法適用会社が 15 社で変更はございません。

環境要因

項目			2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	135.5	140.5 [140.0]	5.0	
資 材 価 格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	793	660 [670]	△ 133
		国産	円/KL	76,400	66,200 [67,200]	△ 10,200
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	1,038	880 [850]	△ 158
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	393.8	198.0 [188.0]	△ 195.8
円/t			53,337	27,819 [26,320]	△ 25,518	

[]は2023年度下期のみの数値

17

続きます。環境要因です。

為替レートは、下期は140円と見ております。したがって、通期では140.5円となり、対前年度対比では5円の円安と見ております。

ナフサにつきましては下期670ドル、したがって通期は660ドルで133ドル下落と見ております。ベンゼンにつきましては下期850ドル、したがって通期は880ドルとなり、158ドルの下落と見ております。

豪州炭につきましては下期188ドル、通期としては198ドルです。こちらも195.8ドル下落と見ております。

主要項目

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	4,947	4,840	△ 107	△2.2%
営業利益	162	170	8	4.9%
経常利益	△ 87	265	352	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 70	215	285	-

項目	2022年度末 (A)	2023年度末 (B)	差異 (B) - (A)
総資産	7,327	7,600	273
有利子負債	2,181	2,180	△ 1
自己資本 *1	3,616	3,850	234
年間配当金 (円/株)	*2 95.00	*3 100.00	5.00

*1: 「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

*2: 95.00円 (中間配当金50.00円、期末配当金45.00円)

*3: 100.00円 (中間配当金50.00円、期末配当金50.00円)

(注) 2023年度第1四半期連結会計期間において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。

2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

18

続きまして連結業績予想の主要項目、18 ページ目でございます。

売上高は 4,840 億円となり、前年度比で 107 億円、2.2%の減収と見ております。営業利益につきましては 170 億円となり、8 億円、4.9%の増益と見ております。

経常利益につきましては 265 億円ですが、こちらは 352 億円の増益となり、前年度の赤字から黒字に転換すると見ております。親会社株主に帰属する当期純利益は 215 億円となり、285 億円の増益と見ております。こちら前年度の赤字から黒字へ転換いたします。

バランスシートの項目をその下に記載しております。総資産は 7,600 億円、有利子負債は 2,180 億円、自己資本は 3,850 億円です。こちらは第 2 四半期でご説明した内容と同じようにご理解いただければと思っております。

それから、年間配当金は 100 円を予想しております。第 2 四半期で 50 円、それから期末で 50 円を予想しております。

セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2022年度	2023年度	差異	増減率
		(A)	(B)	(B) - (A)	
売上高	機能品	622	675	53	8.6%
	樹脂・化成品	2,934	2,575	△ 359	△ 12.2%
	機械	969	1,065	96	9.9%
	その他	731	810	79	10.8%
	調整額	△ 308	△ 285	23	-
	計	4,947	4,840	△ 107	△ 2.2%
営業利益	機能品	102	130	28	26.9%
	樹脂・化成品	26	△ 20	△ 46	-
	機械	52	65	13	24.1%
	その他	26	40	14	54.1%
	調整額	△ 45	△ 45	△ 0	-
	計	162	170	8	4.9%

19

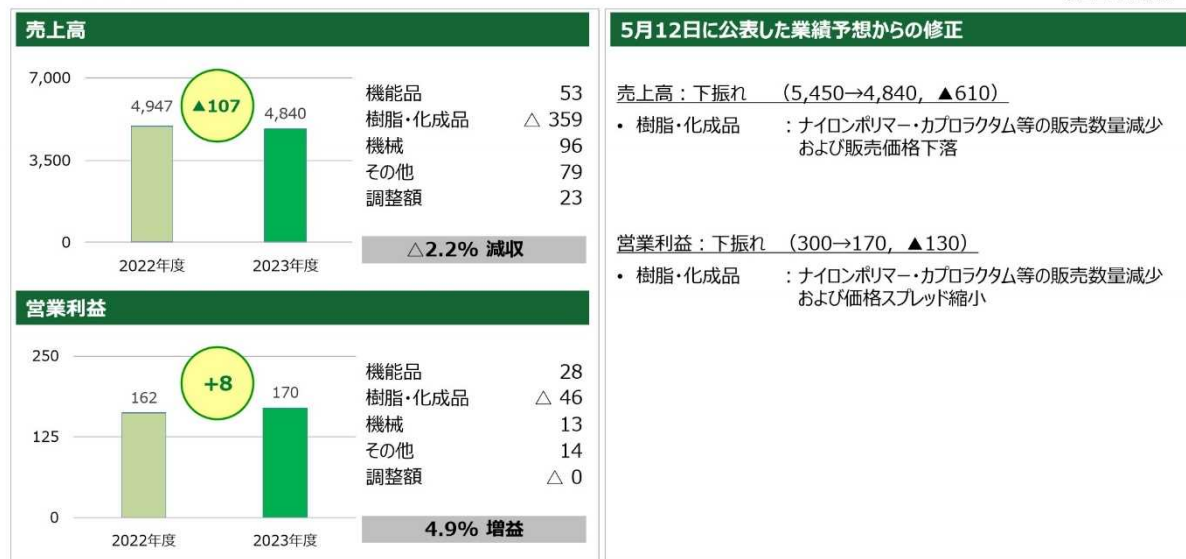
続きまして 19 ページ目、セグメント別の売上高/営業利益です。

売上高は 107 億円の減収ですが、その減収の要因をセグメント別に見てまいりますと、樹脂・化成品が 359 億円の減収です。このセグメントの要因によって減収となります。機能品、機械、それから医薬を含むその他のセグメントは、いずれも増収となります。

営業利益は 8 億円の増益です。こちらも売上高と同じく、樹脂・化成品が 46 億円の減益と見ております。他方で機能品、機械、それから医薬を含むその他セグメントは、いずれも増益となります。こちらのほうが上回って、全体では 8 億円の増益となっております。

差異分析 全社

(単位：億円)



20

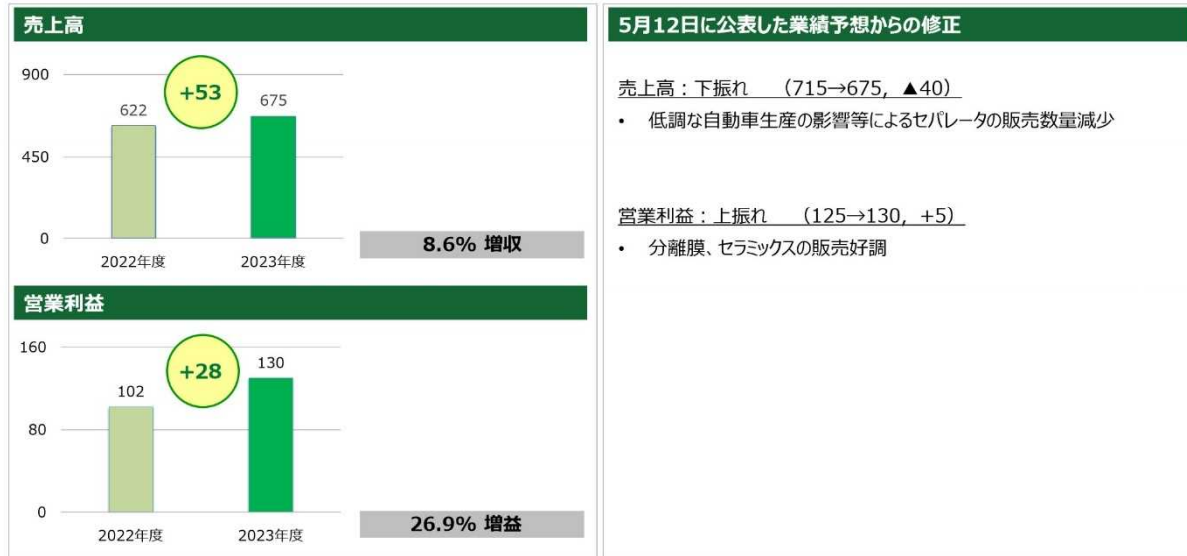
20 ページから連結業績予想につきまして、主として5月12日に公表した業績予想から現時点の予想への修正内容についてご説明いたします。

まず全社、20 ページですけれども、売上高につきましては5,450 億円から4,840 億円、610 億円下方修正いたしました。こちらの要因はナイロンポリマー、カプロラクタムなどの販売数量の減少、および販売価格の下落によるものです。

営業利益につきましては、300 億円から170 億円に下方修正いたしました。樹脂・化成品セグメントにおいて、ナイロンポリマー、カプロラクタム等の販売数量減少、および価格スプレッドの縮小によるものです。

差異分析 機能品

(単位：億円)



21

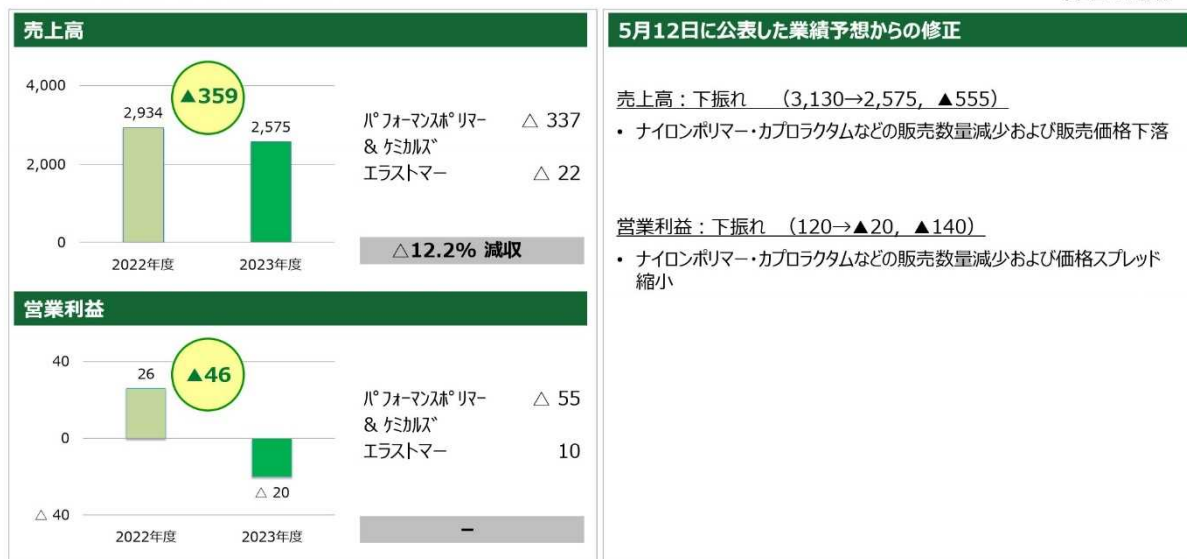
続きまして 21 ページ目、機能品セグメントです。

売上高は 715 億円から 675 億円に下方修正しております。要因としましては、低調な自動車生産の影響等によるセパレータの販売数量減少でございます。

営業利益につきましては、125 億円を 130 億円に上方修正しております。分離膜、セラミックスの販売好調によるものです。

差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



22

続きまして 22 ページ、樹脂・化成品セグメントです。

こちらは売上高が 3,130 億円から 2,575 億円に、550 億円下方修正いたしました。その主な要因としますと、やはりナイロンポリマー、カプロラクタムなどの販売数量の減少、および販売価格下落です。

営業利益につきましては 120 億円の黒字から 20 億円の赤字に、140 億円下方修正しております。要因としましては繰り返しになって恐縮ですが、ナイロンポリマー、カプロラクタムなどの販売数量の減少、および価格スプレッドの縮小ということでございます。

2023年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

差異分析 機械

(単位：億円)



23

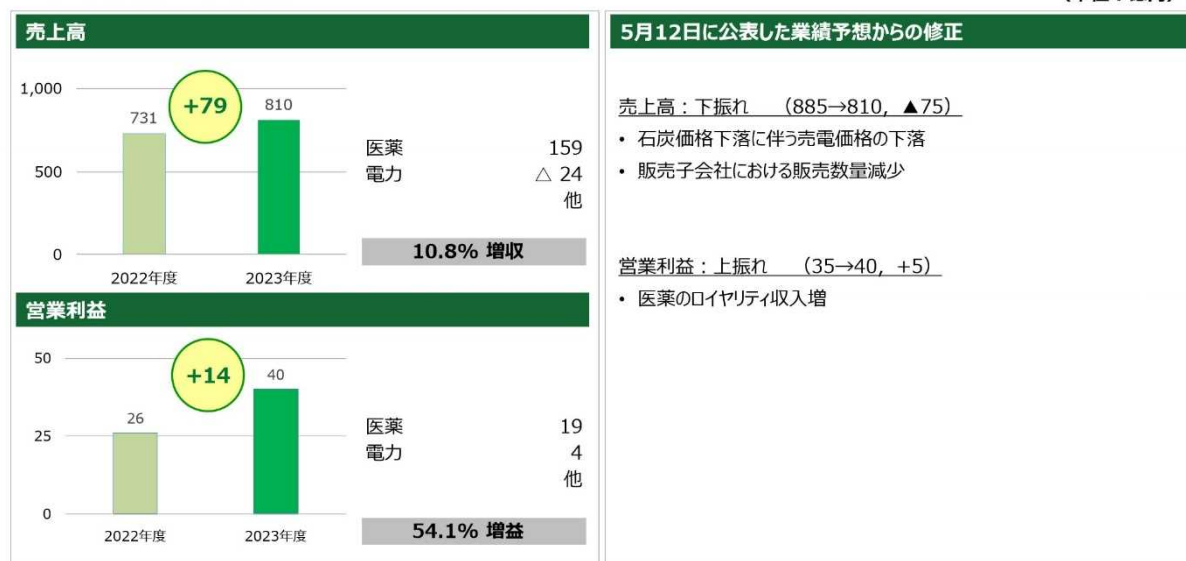
続きまして 23 ページ目、機械セグメントでございます。

こちらは売上高につきましては 1,085 億円を 1,065 億円に、20 億円下方修正いたしました。こちらは製鋼における需要減退により、販売数量が減少したものです。

営業利益につきましては 60 億円を 65 億円に 5 億円、上方修正いたしました。こちらは、産機が堅調に推移していることが大きな要因でございます。

差異分析 その他

(単位：億円)



24

続きまして 24 ページ、その他セグメントとなります。

売上高につきましては 885 億円を 810 億円と、75 億円下方修正しております。その主な要因は、石炭価格下落に伴う売電価格の下落、また販売子会社、特に海外の販売子会社の販売数量の減少によるものです。

営業利益につきましては上方修正しております。35 億円を 40 億円と、5 億円上方修正いたしました。こちらは医薬のロイヤリティ収入によるものです。

営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	162	170	8
営業外損益	△ 250	95	345
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	△ 246	105	351
経常利益	△ 87	265	352
特別損益	61	△ 20	△ 81
税金等調整前当期純利益	△ 27	245	272
法人税等・非支配株主利益	△ 44	△ 30	14
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 70	215	285
1株当たり当期純利益	△ 72.54円	221.51円	294.05円

(注) 2023年度第1四半期連結会計期間において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

25

続きまして 25 ページ目、営業利益から当期純利益まででございます。

営業利益につきましては 170 億円となり、8 億円の増益となります。それ以下でございますが、営業外損益は 95 億円ということで、345 億円増益となります。

その主な要因につきましてはその下の行にございますけれども、UBE 三菱セメントに係る持分法投資損益が 105 億円となり、前年度比 351 億円改善いたします。

(参考) 2023年度 第2四半期決算

UBE / UBE株式会社

UBE三菱セメント

■UBE三菱セメント㈱ 連結損益計算書

(単位：億円)

項目	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2023年度 通期予想
売上高	2,814	2,989	6,000 (6,700)
うち海外事業	659	928	1,850 (-)
営業利益	△ 200	216	330 (250)
うち海外事業	32	180	240 (-)
経常利益	△ 186	225	335 (255)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 263	131	190 (145)

■UBE㈱ 持分法投資損益

()は2023/5/12に発表した予想

持分法による投資利益 (損失)	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2023年度 通期予想
	△ 127	69	105 (80)

- 国内セメント事業は、5,000円値上げの完遂、事業構造改善や安価熱エネルギーの使用拡大等の施策を推進したものの、内需減少による販売数量減、円安によるコストUPなど依然厳しい状況が続いており、更なる収益改善を図り、今年度黒字化達成を目指す。
- 環境エネルギー事業および国内グループ会社は堅調に推移している。
- 海外のうち米国事業は、上期の生コン販売数量が前年の天候不順により持ち越された工事が再開し増販となったことに加え、値上げが早期に浸透した結果、対前年で大幅増益となった。一方で下期は生コン販売減とコスト増により上期に比べ減益となるものの、値上げ効果により対前年増益となり、通期しても対前年大幅増益を見込む。

■UBE三菱セメント㈱ 定量情報

項目	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2023年度 通期予想
セメント (国内総需要) (万t)	1,860	1,739	3,600 (3,800)
セメント (国内) 販売数量 (万t)	457	415	865 (928)
セメント (米国) 販売数量 (万st)	92	93	180 (169)
生コン (米国) 販売数量 (万cy)	368	381	700 (748)
一般炭価格 (参考指標) (\$ / t)	398	154	177 (370)
ドル為替レート (円/ドル)	134	141	145 (130)

※ 上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 2023年9月末 連結貸借対照表

(単位：億円)

総資産	7,841	有利子負債	2,034	自己資本	3,458
自己資本比率	44.1%	D/Eレシオ	0.59倍		

35

そのご説明につきましては、同じく 35 ページをご覧くださいと思います。

UBE 三菱セメント社の通期の業績予想ですけれども、現時点では売上高につきましては 6,000 億円、営業利益は 330 億円、経常利益は 335 億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 190 億円と見ております。その結果、当社が持分法による投資損益として取り込むものは 105 億円となっております。

UBE 三菱セメント社の損益について左下のコメントを見てまいりますと、下期につきましては、国内で内需減少による販売数量の減少、円安によるコストアップ、また上期から下期への補修費などの後ろ倒しもございます。そういったものもございますので、厳しい状況ではありますけれども、なんとか収益の改善を図ってまいりたいと考えております。

それから海外、特に米国事業につきましては、下期には生コンの販売数量が減少すると見ております。また原材料や人件費などコストアップといった要因もございますが、値上げ効果等もございませぬので、通期としては対前年度に対して大幅な増益を達成したいと考えております。UBE 三菱セメント社につきましては以上です。

2023年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	162	170	8
営業外損益	△ 250	95	345
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	△ 246	105	351
経常利益	△ 87	265	352
特別損益	61	△ 20	△ 81
税金等調整前当期純利益	△ 27	245	272
法人税等・非支配株主利益	△ 44	△ 30	14
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 70	215	285
1株当たり当期純利益	△ 72.54円	221.51円	294.05円

(注) 2023年度第1四半期連結会計期間において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

25

ページを戻っていただきまして、25 ページ目です。これらの要因により、営業外損益が 95 億円、345 億円、前年度対比で改善しますので、経常利益は 265 億円、前年度対比で 352 億円改善いたします。

またその結果、親会社株主に帰属する当期純利益は 215 億円、285 億円改善し、前年度の赤字から黒字へ転換してまいります。

私からのご説明は以上です。

質疑応答

【機能品について】

Q1：機能品は1Qから2Qにかけて営業利益が4億円減少しているが、この要因は。

A1：ワニスが低調なスマホ需要の影響を受けるなど、ポリイミドにおいて若干の調整があった。
その他、いくつかの製品で減益となっている。

Q2：機能品は上期から下期にかけて営業利益が16億円増加する見通しだが、要因は何か。

A2：分離膜やセラミックスが成長しており、売上高・営業利益の押し上げ要因となっている。

Q3：直近ではパネルメーカーの稼働率が低下しているが、ポリイミドの損益見通しはその影響を織り込んでいるのか。

A3：下期の見通しは不透明であり、ポリイミドの下期については横ばい程度で推移すると想定している。

【樹脂・化成品について】

Q4：カプロラクタムのマージンや数量も踏まえて、樹脂・化成品の上期と下期の状況を教えてほしい。

A4：カプロラクタムやナイロンは、中国の景気後退もあり需要が盛り上がり、また中国品が国外市場に流入することによりグローバルで競争が激化し、上期は当社品の数量も価格も悪化した。カプロラクタムはこれから冬物衣料の需要が出るうえ、顧客の在庫調整も進んでいると考えられるため、下期には一定程度の回復を想定している。ただし販売価格と原料価格の差（スプレッド）は足元の水準が続くと想定しており、過度な期待はしていない。

Q5：下期のカプロラクタムのスプレッド想定は。

A5：下期は 725 ドル/t で想定している。足元でもこのような水準で推移している。

Q6：パフォーマンスポリマー & ケミカルズの損益が上期から下期にかけて大きく改善する想定だが、どの事業の改善を見込んでいるのか。

A6：冬季の天然ガス価格上昇によるアンモニア価格上昇などにより、硫安市況が改善することを想定している。また、ファインケミカルについても改善を見込んでいる。

Q7：エラストマーの下期見通しが、対前年同期で減益となるのはなぜか。

A7：上期に原料価格が下落したが、製品価格へは遅れて下期に反映されるため、対前年同期で下期のスプレッドが縮小すると想定している。

Q8：タイやスペインの子会社の業績が厳しいが、汎用品の能力削減は検討しているか。

A8：海外拠点の損益は悪化しているが、まずは可能な限りのコスト削減に取り組む。

【機械について】

Q9：下期の見込みにギガキャスト用超大型ダイカストマシンの追加受注は織り込まれているか。

A9：UBE マシナリーが昨年 11 月の展示会で発表して以来、多くのお客様からお問合せをいただいているが、現時点では発表できる内容はない。

Q10：ギガキャスト用超大型ダイカストマシンについても、他の機械製品と同じように将来サービスの収益を期待できるのか。

A10：仮に当該機械を多数納入することになれば、サービスでの収益は相応に発生すると考えられる。

【UBE 三菱セメントについて】

Q11：セメント販売数量が減少するにも拘らず、上期から下期にかけて国内事業の営業利益は改善する見込みとなっているが、石炭価格の下落および 5,000 円値上げが完遂されたことが主な要因か。

A11：その通り。

Q12：海外事業については、上期から下期にかけて売上高は変わらない一方、営業利益で約 120 億円の減益となることが見込まれているが、要因は何か。

A11：米国事業において、インフレに伴う原材料や人件費の高騰等に加えて、2023 年度の 4Q に天候不順によって出荷が減少することを想定している。